

寛門記

百九十六

亡世まで誰か慕はん何事も正せる道の深きところを
其外親王方攝家公卿の御跡をぞ敷く有と雖も爰に省きて載せず委敷の御家臣の作にて西山遺事
と云書に載られり恐れ乍ら義公御一生の中の御仁徳の大なるものを擧て小なるを洩しつ只未
世の今日に至るまで其御仁心を雜ひ奉つるにゐん殊に添川の石碑の如きと千載の美談ふして蔽
帯たる甘棠児る事勿れと毛詩に云しも此君の御事ありと有難かりし事共なり

水戸黄門仁徳録畢

明治廿年六月十一日御届

全年全日出版

定価金一圓

東京府平民

出版人

森仙吉

日本橋區橋町四丁目
十一番地

東京橋町四丁目 鶴聲社

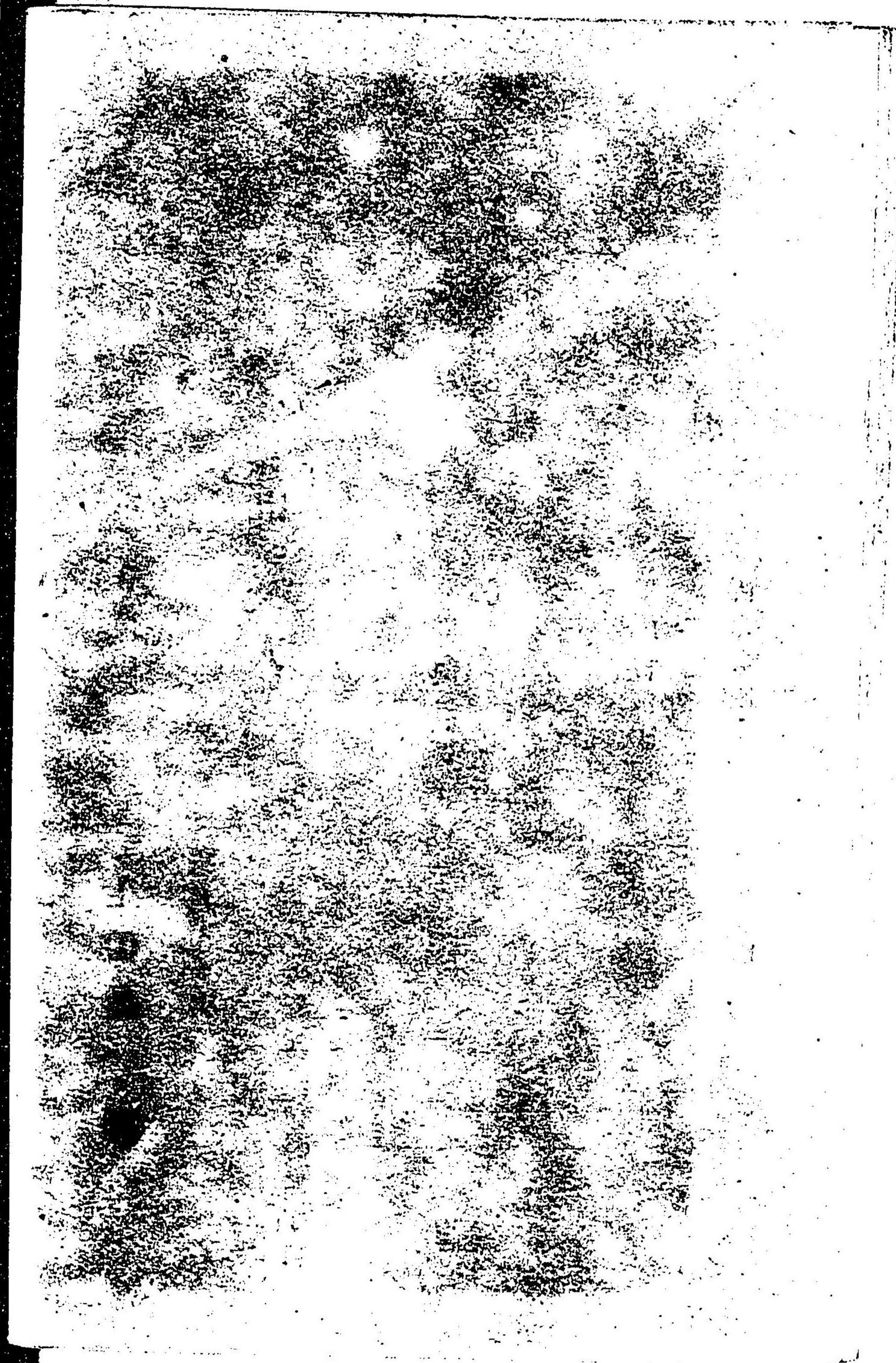
大坂心齋橋南詰 東京屋

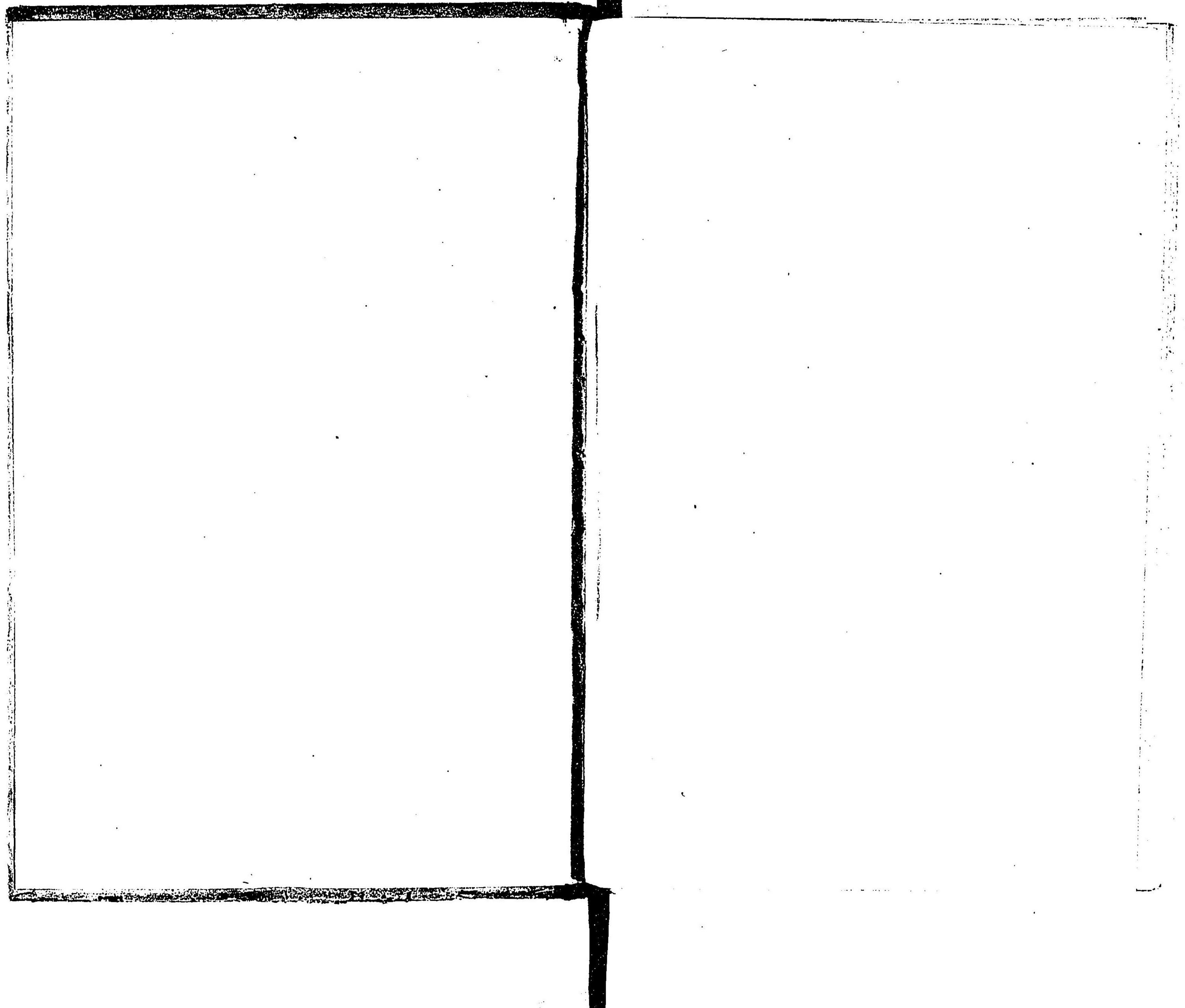
横濱吉田町四丁目 鶴聲社支店

西京寺町通松原南 改進堂

兌

發







2